



SESERAGI—MISHIMA
ROTARY CLUB
WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2021～2022年度 RI会長 シェカール・メータ
RIテーマ 奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

クラブテーマ「会員の健康と地域リーダーの育成、
そしてロータリーの基本、規律を大切に」

会長 米山晴敏 幹事 仲原実圭

特別会報 (3)
2021.9. 17(金)

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210

毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 米山晴敏君

8月の『会員増強・ロータリー拡大月間』はコロナで休会でした、年間10の特別月間の一つですので、遅ればせながらその話をしたいと思います。

服部増強委員長とは別角度からの話になります。

この特別月間は国際ロータリー理事会が指定しました、なぜ8月か、8月から増強しておけば年度内に効果が表れると期待されているからです。

拡大月間には三つの要素があります、一つは会員を増やす、単なるロータリアンを増やすことです(内部拡大)、二つ目は楽しく、有意義なクラブを作ることです(退会防止)。三つ目は新しいクラブを作ることです(外部拡大)。

一つ目、二つ目は言葉通り、三つめは三島RCが三島西RC、三島西RCがせせらぎ三島RCのスポンサーとして外部拡大の増強の結果です。

増強の増は会員数を増やすこと、強は会員の質を高める事、すなわち、会員の内なる人を強く、磨くことです。

質を高めることなくして、真の会員増強は難しいと思います。

会員の減少原因は何でしょうか？様々な原因がありますが、最大の原因はロータリーに魅力がなくなったと感じたからではないでしょうか？

ロータリアンとしての誇りを持ってなくなったから？社会に求められる、社会に役だっていることが実感できれば、ロータリアンとしての誇りを持てます。

そんなクラブになれたら入会希望者は増えると私は考えますがどうでしょうか？

皆さんに相談したいことが沢山あります、10月第一週の例会で2カ月ぶりに皆さんに会えることを楽しみにしています。

スマイルボックス

大村 典央君:昨年から妊活していましたが、無事3人目を授かることができました。女の子が欲しいという妻のたつての願いで始めましたが、3人目も無事に男の子でした。出産予定日は来年2月頭です。カンボジアへの渡航の時期がずれてくれれば良いなと思っています。また、今年11月から品川ユナイテッド法律事務所に金本弁護士が入所します。折を見て紹介させていただきますので、よろしくお願いたします。

山口辰哉君:PSA値が高いということで先週初めから医療センターに検査入院していました。加藤パスト会長のようにならなければいいのですが・・・

原 兄多君:2回目のワクチン接種が21日に完了しました。副反応が心配ですが、一安心です。

仲原実圭君:いよいよ10月から例会が始まります。(緊急事態の延長がなければ?)

皆様にお逢い出来ることを楽しみにしています。



幹事報告

幹事 仲原実圭君

①10月1日金曜日 第1例会は開催致します。尚、食事はお弁当で対応させて頂く予定です。

・例会終了後、理事役員会を開催致します。関係者の方は出席願います。

・第1例会 卓話 山口雅弘君 宜しくお願致します。

・9月24日金曜日 第1グループ会長幹事会(第3回) Zoom開催

卓話

3035委員会

委員長 大村典央君

意義

30周年記念式典の際に発表した、今後5年間の活動指針を具体化するための委員会で、せせらぎ三島ロータリクラブの基本理念である青少年保護育成という観点から、青少年支援活動をおこなっていくこと、その際、ソーシャルネットワークサービス(SNS)等を用いて、青少年側からの要望を取り入れ、それを奉仕内容に反映していくこと、おこなった奉仕活動を35周年で発表することを目的としています。

各委員会との横の繋がり

各委員会で取り組んでいる事業のうち、青少年支援に関係する分野については、3035委員会としても支援をおこなっています。

おたまちゃん食堂、障害者サッカー、カンボジア留学生への支援は継続事業として協力して参ります。

3035委員会個別事業

稲刈り後の田んぼにれんげや矢車草の種を蒔き、春に咲いた花を近所の園児に摘んでもらい、そのお花を、コロナウイルス感染者の受け入れを実施している病院の医療従事者等に渡す事業をおこないます。

コロナ禍ですが、屋外で、人の密集がない場所(田畑)での事業ですので、実施可能と考えています。

三島市内のいくつかの田んぼに蒔きたいと思っています。ご協力のほどよろしく願いいたします。

タイ米山学友会が農村の小学校を支援 ～「ハイライトよねやま」より～

タイ米山学友会は8月17日、首都バンコクから450kmほど離れたタイ東北部のコーンケン県で、小学生81人へ緊急支援セットを寄贈しました。

今回は、同県在住の米山学友、アイラダー・カムピラーさん(2017-18/東京本郷RC)から、コロナ禍の影響を受けている地元の小学生たちやその家族を支援したいとの提案を受け、保存食やマスク、アルコールジェル、家庭薬などが入った支援セットを準備。タイ米山学友や、本プロジェクトに賛同する日本のロータリアンからの応援メッセージを添えて、アイラダーさん自ら小学生たちに手渡しました。アイラダーさんは「奨学期間が終わってからも、“入りて学び 出でて奉仕せよ”の言葉がいつも心に残っています。今回の活動を学友会の皆さんや日本のロータリアンに支えていただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいです」と、話しました。ワシン会長は今回の活動を受け、「今後も、地方に住む学友から実施したいプロジェクトを募集し、その活動を学友会として応援していきたい」と、語っています。

「新会員自己紹介」

野村諒子君

少し色づいた木々も見え始め、秋の気配を感じるこの頃ですが、皆さまお健やかに過ごしてでしょうか。緊急事態宣言により人と会うことが難しい日々ですが、だからこそ、人とのつながりは大切にしたいと感じるこの頃です。

大房正治先輩のご紹介で、この度、入会させていただきました。

せせらぎ三島ロータリクラブの皆さんは、社会貢献活動に意欲的な方々が多いと伺っていましたが、本当に皆さんの活動の報告を伺っていると、仕事も活動も人との交流も大切にしていらっしゃることが良くわかりますし、その一員にさせていただき有難いと思っています。

私は、小山町に生まれ、高校は御殿場線で沼津に通い、大学、夫の転勤等で、東京方面に8年、静岡に5年住み、その後は夫の出身地である三島に戻って33年になります。転勤族の頃はバブル期で、日本の高度経済成長期から今に至るまでを見てきますと、物資の豊かさを求めていた時代から、心の豊かさや人間らしい生活スタイルを求める時代へと変わってきていることを感じます。その一方で、貧富の差が外国より少ないと言われていた日本で、就職形態の違いから格差が生まれ、ぎりぎりの生活により心のゆとりがなく、将来を不安に思う人たちが増えていることが気になります。このような中で、これからの社会に何が必要かということも皆様と共に考え、取り組んでいくことができればと思っています。

これまで社会活動として、NPO法人設立支援、市民活動センター設立(静岡県、御殿場、裾野、小山町等)、障がい者の社会参加、外国人の日本語指導支援、などを行ってきました。社会変革の難しさと市議会議員になったきっかけなどは、改めて機会があればお話させていただきます。

高齢といわれる年齢にはなりませんが、人は何歳になっても出来ることはある・・と思い、皆様と共に社会参加していきたいと思っています。よろしく願いいたします。

